

産業・テクノ

LPガス「シエンタ」導入

日の丸交 通足立 立駐・燃料費問題解決

日の丸交通足立（東京・足立区）は7月末、トヨタ「シエンタ」のLPガスハイブリッド車を導入した。都内では初のLPガスとガソリン、電気ハイブリッド車の導入だ。UNBASE Gハイブリッド車はエフ・ケイメカニックス（大分県大分市）のキットをDII・石川エンジニアリング（東京・足立区）が販売、エフ・ケイが施工した。ハイブリッド車は通常、LPガス容器をトランク下に設置するが日の丸交通からの要望を受けタクシー専用としてトランク内に設置した。40リットル容量のタンクは12キロ前後、LPガス一充填で350キロ超走行する計算だ。LPガスが切れると自動的にガソリンに転換、最長走行距離は700キロ程度。成田送迎など長距離の配車でも燃料切れの心配がない。



同車は国際的な新自動車排気ガス検査方法「WLTC」による初めてのLPガス改造認可車両。検査の結果、ベースのガソリン車に比べ一酸化炭素が7分の1、炭化水素が4分の1、窒素酸化物が3分の1で環境性能に優れることも分かった。

日の丸交通足立では現在189台のうち50台弱がガソリン車のシエンタ。車庫が200台収容のタワー式でJPNタクシーが入庫できず、ワゴン型のシエンタへの代替えを進めている。今年度末には110台まで増やす。横山真人所長は「シエンタは立駐駐車場に入るワゴンで便利だがガソリン車なので燃料費が悩み。経費削減効果に期待している」と話す。

エフ・ケイメカニックスの末宗隆郎専務によるとシエンタ150台をLPガス化した場合、1台年間8万キロ走行し3年間でガソリン車との燃料代差額が4億円になるという。

日の丸交通車両課の富間智課長は「改造車がコンビューター制御に進化しガソリン車と全く変わらない走りだ」と話す。

同車を担当する栄自動車（東京・足立区）の中村正人整備部長は「メンテナンスも安定している。耐久性など導入後の結果を精査しながら今後、さらにLPガスへの切り替えが進むよう精いっぱい努力していく」と力を込めて語った。

問い合わせは栄自動車整備部 ☎03(33887)6116まで。

タクメーター活用 クラウドサービス

矢崎エナジーシステムが発売

はこのほどタクシメーターを活用したクラウドサービス「TAXI-Cloud」を全国一斉発売した。労働環境やコンプライアンスへの対応、事前確定運賃実証実験や配車アプリ等のIT技術を活用した新たなサービスのニーズに対応するタクシメーターシステム。安全運転管理機能に加えて、走行時間、休憩時間などの労務状況や売り上げの確認

富士エネルギー 村田 至利 常務

コスト削減に腐心



タクシメーター運行に欠かせないLPガスだが、ガソリンハイブリッド車の普及や、燃費効率が大幅に向上したトヨタJAPPA Nタクシメーターの登場などで、LPガススタンド業界は厳しい状況にある。東京・目黒、五反田、新宿（中野）でLPガススタンドを持つ富士エネルギー（末廣元成社長）の常務として営業を切り盛りする。最盛期37万台あった減策が必要」と訴える。

まずは営業時間の短縮。次いで警備会社に委託した機械警備によ



まずは営業時間の短縮。次いで警備会社に委託した機械警備によ

ドライバーのなかでも最高「アーストハイヤー」が添乗美